

書くことで 伝わる



第60回新春書初め大会(1月7日)で、今年の干支「卯」を揮毫



本間 美智子さん(花栗)
20歳の時から60年間、書の道に生きる書道家。現在、町内外で8つの教室を運営。島根県書道教育連盟教授を務める

普段「書く」ということを意識することは、あまり多くないのかもしれませんが、時代が変わっていくことで、字を書く機会は減っているのではないのでしょうか。鉛筆であれ、筆であれ、もう一度、字を「書く」ことを意識してみませんか。

書くことに始まる一年

新年最初の土曜日、みんなの広場来島交流センターで開催された毎年恒例の「新春書初め大会」。今年は、小中学生など20人が参加しました。参加者は手本を見たり、指導を受けたりしながら、それぞれ今年の目標や抱負などを時間をかけて、丁寧に書いていました。

力強く、繊細に書いていきます。「うさぎ年ですし、皆さんが飛躍する一年になることを祈念して書いてみました」と本間さん。今年で60回を迎える書初め大会を振り返って「年始めに書初めをして、ようやく一年が始まる感じがします」と話します。

今年80歳を迎える本間さん。西蔵寺(赤名)の一部を会場に書道教室を始めて60年。「継続は力なり」。字が上手くなるだけではない、書道の魅力を話してくれました。

人としての成長

「幼い頃から、字を書くことが好きでした。三次女子専門学校を卒業して、飯南町に戻ってきた時、当時の西蔵寺の住職に勧められて、教室を開いたことが、書道を本格的に始めるきっかけでした」と本間さん。教室を開いてからは、自分自身が上達するため、教室に通う皆さんにも上達してもらうため、無我夢中で学び、書き続け、そして教え続けてきました。

一番多い時には、町内外23カ所で教室を運営してきた本間さん。昭和45年からは、町内の小中学校や高校でも指導し、児童生徒の書写の能力向上にも尽力。「字が上手くなるだけではありません。集中力や礼儀、コミュニケーション。多くのものが身に付き、人として大きくなっていきます。私もそうだったように、書を学ぶ皆さんも成長していくんです」と話します。

字に表れる

「字の上手さ」以外の要素も書くことの魅力の一つ。本間さんは「字には人柄や思いやりが出るんです」と話します。

書道の作品だけでなく、手紙やはがき、ちよとしたメモ書き。書く人が違えば、字にも同じものはありません。上手な字もあればそうでないものも。「上手に書くことに越したことはないけれど、一番重要なことではありません」と本間さん。これまで60年間、書道教室などをとおして、「書くことで大切なのは、想いを乗せること、伝える意識を持つこと」と話します。

子どもから高齢者まで、スマートフォンやパソコンを普段の生活で使用するデジタルな社会。そんな時代でも、字を書くことを続けてきたからこそ、「書く」ことの大切さを伝えていきたい」と本間さん。

「字を書くことには、相手への気遣いが必要です。相手のことを考えて、読みやすいように書けば、字は上手くなくても大丈夫。子どもでも大人でも、真剣に書いたことや想いは、字が伝えてくれます」と笑顔で話していました。



手本を書くときは説明を交えて



手本とらめっこしながら字を書く姿は真剣そのもの



指導は優しさと厳しさをもって



「書くことで伝わる」を揮毫

気軽に書くことを始めてみませんか?

書道教室

赤名・来島・傾原の3地区で開講。日時や会場など、詳細はお問い合わせください。

■問合せ/本間美智子
☎電話0854-72-0604

筆ペン講座

- 日時/毎月第1、3土曜日
9時30分~11時30分
※変更になることがあります
- 会場/交流センターとんぼら
- 料金/500円
- 持ち物/筆ペン、ボールペン、半紙、便箋など
※自分が書くための道具で必要なもの
- 申込み/不要。会場にお越しください
- 問合せ/飯南町教育委員会
☎76-3944